

「我が事・丸ごと」地域づくり推進事業

地域力強化推進事業「もみの木」

平成30年度 事業計画書

1 行動方針

社会福祉法人が本来行うべき事業として地域福祉の推進を捉え、子供・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、「地域共生社会」の実現を目指す。支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成・促進していく。

2 他人事を「我が事」に変えていく取り組み

地域での福祉に関する困りごとや困難なケース課題であっても、地域のフォーマル支援や行政との連携による解決ケース・対応を行う中で、徐々に地域住民との関わりや協働を重ね、そうした取り組みを当事者へのプライバシーに配慮した上で広く住民の方に知っていただく。また、諸問題に関して共に学ぶことを通じて、地域や福祉を身近なものとして考える研修・話し合い・ワークショップなどを開催する。

3 とりあえず「丸ごと」受け止める場の整備

住民に身近な圏域での「世帯丸ごと」「複合課題丸ごと」を受け止める場として活用いただける事業所となり、専門的対応に関しては行政を中心とした地域包括ケアシステムとの連携による包括的な相談支援体制整備を図る。また、相談者の実態を的確に把握し、必要があれば緊急的な対応が図れるよう、地域資源の把握を行う。

4 生き生き教室の実施・継続

事業開始当初より、地域の方々から身体を動かす場がほしいとの要望があり、地域住民と行政施策をコーディネートすることにより開始した宇和島市総合事業である「生き生き教室」を、更に地域住民に周知し、地域住民の介護予防に資する事業として継続を図る。

5 住民ニーズに関する調査の実施

地域住民の各福祉問題や潜在的な意識に関する相談・支援ニーズを明らかにすることを目的として、相談場所である「もみの木」の利用可能性を検討することで、

地域コミュニティ形成や集いの場、問題解決の拠点として、それぞれの相談ニーズと地域資源を合わせた解決方法を考え、関わり、働きかけを行う。

6 共生型サービスの検討・計画

上記の事項を実施していく中で、地域に根差した事業所となるためには財源が必要不可欠で有り、フォーマルサービスの信頼性が職員・住民の方々にとっての拠り所となる。居宅介護支援事業所の開設にとどまらず、持続可能性の拡大を図る重要な位置づけとなる。また、地域住民ニーズに対応した共生事業を検討・計画・設置の各段階から住民の方に参画して戴くことで、自分たちが関わってできた事業所であるとの住民参加意識が生まれ、事業所や地域に対する協力体制の醸成が図られることが期待できる。未来型で有りながらも、現実的に可能な案の検討を重ねた上で、共生型サービスの実施を図る。

7 その他

[年間行事計画表]

月	行 事	備 考
30年4月	お花見 住民及び職員により 生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
5月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
6月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
7月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木） 夏休み企画 住民及び職員により	
8月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
9月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
10月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
11月	コスモス祭り協力 法人職員含め協力 生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
12月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木） イルミネーション設置 商工会青年部協力により	
31年1月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
2月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
3月	生き生き教室（月・水）コスモスの会（木）	
その他：各検討会（2ヶ月に1回以上）・研修会（年2回以上）・ ワークショップ（随時）・ 住民喫茶・企画事業については、日程・参加者を調整の上、随時実施 住民団体による事業体活動についても随時		